

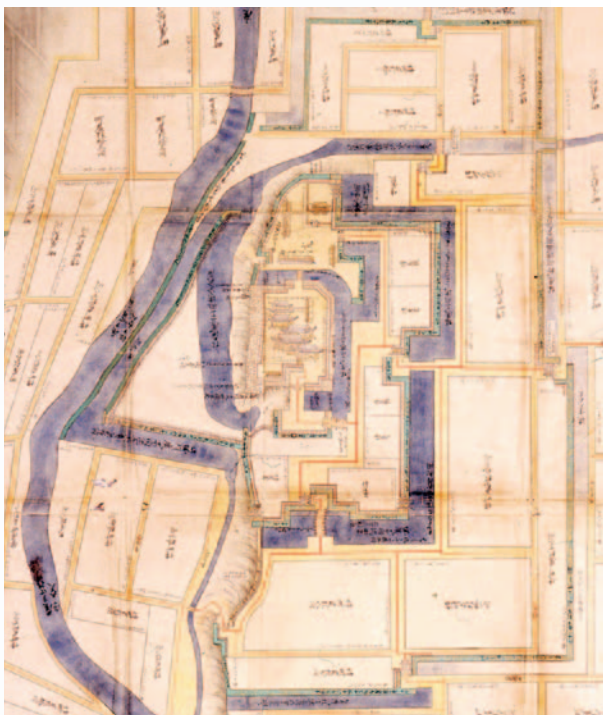
つがるひろさきじょうのえず いっしき
「津軽弘前城之絵図」一鋪弘前市指定有形文化財（昭和38年3月20日指定）
紙本著色 正保2年（1645）推定 縦212.0cm 横199.6cm

本図は、17世紀前半における、弘前城と同
城下の姿を描写した最も古い絵図と推測され、
図の北西隅には「津軽弘前城之絵図」との書き
入れが見えます。図中には、本丸御殿の建物
の様子や堀の深さ・幅、石垣の状態等、城内
の軍事情報が詳細かつ正確に記入されてお
り、城下に関しては武家町と町人町、寺社の
区域等、さらには侍町家数～間（軒）、町屋数
～間（軒）等と、各街区の家数が記されていま
す。それによりますと、当時の城下には、町屋
1,241（66.8%）、武家侍衆336（18.1%）、足軽・
小人・歩ノ者205（11%）、鷹匠24（1.3%）、寺
社53（3%）を数え、町人身分の者が圧倒的に
多かったことを示しています。また、本図に
よって17世紀前半の時期に、本丸東部の石垣
が未だに完成していなかったことが判明しま
す。

本館所蔵の「御絵図目録」には「津軽郡弘前
城之図 御公儀江上ル控 一枚一包」と見え、
本図は江戸幕府へ提出した正式な絵図の控えで
あり、藩政時代を通じて弘前城内に格納されて

きたようです。周知のように、国立公文書館
内閣文庫には、「正保城絵図」と総称される、
統一したマニュアルに沿って作成された、全国
各地の城と城下町を描いた城絵図群が収蔵さ
れています。そのなかに本図と同名の正保3
年「津軽弘前城之絵図」（正保図と略記）が存在
し、ほぼ同様の図柄と内容です。前掲「御絵図
目録」と照合すると、本図は弘前藩が江戸幕府
へ提出した正保図の控えであり、国元津軽でマ
ニュアル通りに作成され、本図をもとに江戸で
清絵図である正保図が作成されたと推察されま
す。正保図は、記述も本図と比較して簡略であ
り、総じて正保図の情報量は少ないようです。
従来、本図の成立年は寛永末年（1643年頃）
と推定されてきましたが、国絵図・郷帳と城絵
図はセットで提出するのが通例ですから、本
図は国絵図等といっしょに正保2年（1645）12
月28日に幕府へ差し出されたと考えられます
（「陸奥国津軽郡之絵図 注書」青森県立郷土館
蔵）。したがって、本図は、寛永末年ではなく、
正保2年の成立とみて支障ないでしょう。

（長谷川 成一）



津軽弘前城之絵図（部分）



津軽弘前城之絵図（全体）